


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2019 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	古澤慧美	会員番号	35197	
申請者の所属・職名	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 分子免疫学分野			
出席会議名	The American Association of Immunologists (AAI), Immunology2019			
発表論文タイトル	Silencing of PD-L2/B7-DC by Topical Application of Small Interfering RNA Inhibits Elicitation of Contact Hypersensitivity			

実施結果:

Tadimitsu Kishimoto International Travel Award のご支援を頂き、5月9日～13日にサンディエゴ開催されました、The American Association of Immunologists (AAI) 主催の Immunology2019 に参加して参りました。沢山の研究者が参加し、幅広い演題の揃う AAI への参加は、視野を広げ、今後の研究テーマを見つける上でとても良い機会となりました。本学会では、博士課程の研究テーマとしていた、皮膚樹状細胞上に発現する PD-L2 の機能についてポスター発表を行いました。PD-L2 は PD-L1 と並んで PD-1 のリガンドですが、PD-L1 : PD-1 経路と異なり、PD-L2 : PD-1 経路の免疫抑制への関与は明確ではありません。私の研究では、皮膚樹状細胞のうち特にランゲルハンス細胞上に発現する PD-L2 が PD-1 以外の受容体を介して免疫賦活に関与することを見出しました。私はマウス樹状細胞上の PD-L2 について研究を続けてきましたが、学会では、ヒト樹状細胞上の PD-L2 の機能について研究している方に出会い、それぞれの研究についてディスカッションすることができました。彼らの発表していた結果の一部は、我々の知見と類似しており、疑問に思う点も共通でした。研究を進める上での悩みに共感しながら、互いの研究結果を紹介しあうことができ、とても貴重な出会いとなりました。

シンポジウムでは、以前から興味を持って論文を読んでいた、「メラノーマにおけるレジデントメモリーT細胞」の研究をしているグループの発表を聞くことができました。生で聞く話は紙面よりも格段に臨場感があり、ポスター会場では実際に研究をしていた同年代の方に実験の詳細について伺うことができました。帰国した今、論文を読んでいると、ポスター会場でお会いした方との会話を思い出すことがよくあります。本学会でお会いした方やそのグループの論文を目にすると、サンディエゴを思い出し、論文の内容が少し近いものを感じられます。研究者の生の声を聴いて得た情報は、その時お会いした人の顔とともに蘇り、論文の文字を追って理解した時よりも深い印象を残しています。

本学会を通して、海外で研究してみたいという気持ちも高まりました。帰国した現在は、次の AAI に新たな研究成果を発表することを目標に、研究を続けています。貴重な経験をさせて頂き、心より御礼申し上げます。

注) 本参加記は手書きでなく、ワープロを使用して作成してください。